

山田みやこの活動報告

令和元年8月9日(金)

2018年度SDGs未来都市選定都市となった神奈川県横浜市・鎌倉市を訪問

2021年度からの栃木元気発信プランの次期プランにSDGsの視点を加えるための先進的な取り組みを調査

《神奈川県》

対応者 政策局SDGs推進課長 船山 竜宏氏

2019年1月30日「SDGs全国フォーラム2019」をパシフィコ横浜にて開催し、「SDGs日本モデル」宣言をした。内容は自治体は人口減少、超高齢化など社会的課題の解決を持続可能な地域づくりに向けて、企業・団体・学校・研究機関・住民などとの官民連携を進め、日本の「SDGsモデル」を世界に向けて発信した。

・神奈川県が「SDGs」に取り組んだ経緯

鎌倉由比が浜にシロナガスクジラの赤ちゃんが漂着。その赤ちゃんの胃の中にビニール片が入っていた。そのことをきっかけに廃プラスチックについて関心が高まり、クジラからのメッセージとして2030年までにリサイクルされない廃プラごみをゼロにする「かながわプラごみゼロ宣言」をして“SDGsアクションブックかながわ”という冊子を作成し、県内市町村・中学校・県立学校に配布した。その内容は貧困と食品ロスの課題解決する仕組みのフードバンク、AI制御で100ℓの水を繰り返し使えるシャワー、食べ残った食料を豚の飼料に使用等を紹介。

SDGsの達成のためには、民間による投資と金融が不可欠である。2030年までにエネルギー、都市、食料、農業の各分野で想定GDPの10%に当たる12兆ドルのビジネス機会をもたらし、3.8億人の雇用を生むと2017年ビジネスと持続可能な発展委員会は報告書を発表。

SDGsパートナー登録制度をつくり、49企業・団体がSDGsパートナーに登録。目的はSDGsを活用して事業展開している企業・NPO・団体・大学を県が登録し取り組み事例を県が広く発信し、取り組みのすそ野を広げる。経済・社会・環境の三側面に関わる取り組みを対外的に公表。県の中小企業制度融資による支援のメリットがある。事例として横浜市資源リサイクル事業協同組合の循環型社会の実現を目指しリユース瓶の開発、ハートフルタウンの女性ドライバー活躍の環境を整えることで企業価値を高める。(株)太陽住建の地域の人たちとのつながりを通じて再生エネルギーの普及と多様な人達の雇用を同時に進めるため、新素材LIMEXを使用した石灰石から生まれたバックやクリアケース等がある。



SDGsの推進に向け

かながわプラごみゼロ宣言

～クジラからのメッセージ～

2018年夏、鎌倉市由比が浜でシロナガスクジラの赤ちゃんが打ち上げられ、胃の中からプラスチックごみが発見されました。
神奈川県は、これを「クジラからのメッセージ」として受け止め、持続可能な社会を目指すSDGsの具体的な取組として、深刻化する海洋汚染、特にマイクロプラスチック問題に取り組めます。
2030年までのできるだけ早期に、リサイクルされない、廃棄される**プラごみゼロ**を目指します。

プラスチック製ストローやレジ袋の利用廃止や回収に、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

14 海の豊かさを守ろう
12 つくる責任つかう責任
17 パートナーシップで目標を達成しよう
3 すべての人に健康と福祉を

プラごみに関すること 神奈川県 環境農政局 環境部 資源循環推進課 電話 045-210-4147(直通)
SDGsに関すること 神奈川県 政策局 政策部 総合政策課 電話 045-285-0908(直通)

《横浜市》

対応者 温暖化対策統括本部

SDGs未来都市推進課長 大蔭 直子氏

係長 小林 武氏

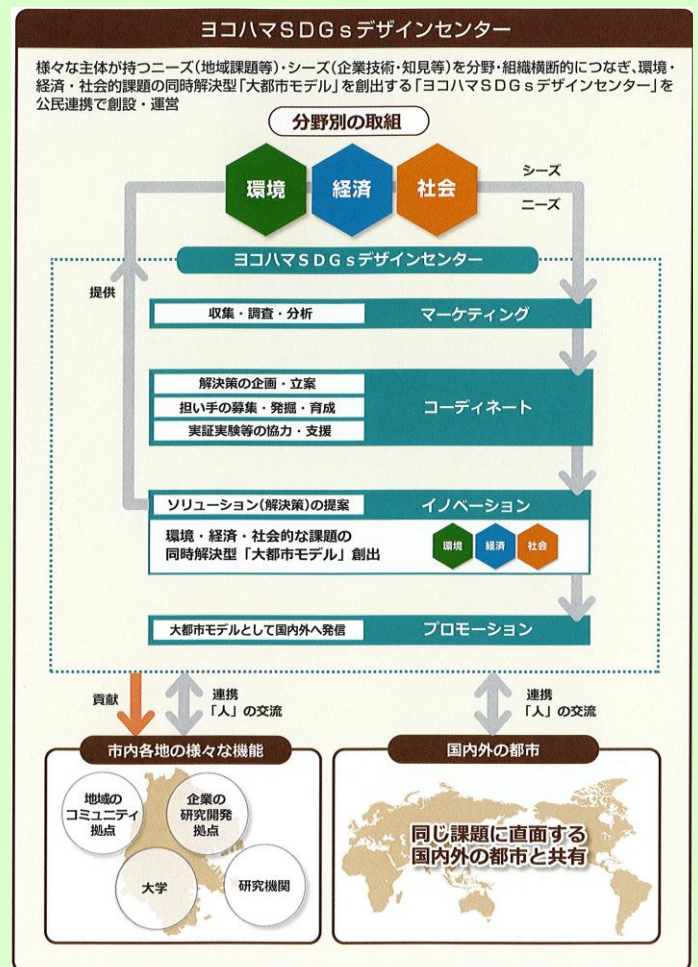
横浜市は2011年環境未来都市として全国都市緑化横浜フェアを開催し、花と緑と笑顔にあふれる都市の実現、企業と連携した多彩なエネルギーマネジメントの実証で家庭部門のCO2排出量29%減、省エネ率17%を達成。RE100に加盟する世界的企業の誘致、企業や大学と協働した持続可能な郊外型住宅地の街づくり、横浜らしい芸術フェスティバルによる経済波及効果を実践してきた。2015年9月国連サミットで「持続可能な開発目標」を中核とした「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、SDGsの動きが活発化してきた。

そこで横浜市は環境モデル都市、環境未来都市からSDGs未来都市へ選定された。経済・社会・環境の三側面のうち、環境面の取り組みでは自然環境を体感し、脱炭素化のため温暖化防止を企業とともに挙げる。焼却場の熱を売電、下水道処理施設などの排出CO2活用し雇用の創出。食品ロスの削減を行う。経済面の取り組みでは、まちづくり施策と連動した経済成長、文化芸術創造都市の実現、最先端の環境技術の活用を行う。社会面の取り組みでは郊外部の再生で住みたい、住み続けたいと思える街づくりの推進を行う。そのため多様な人が活躍する社会の実現を目指す。環境・経済・社会的課題の総合的解決を図る横浜型「大都市モデル」の創出に向け、課題解決に取り組む中間支援組織として「ヨコハマSDGsデザインセンター」を開設(2019年5月) 試行的取り組みとして

- ①ICTを活用し、短時間勤務(週8時間・2日)を職住近接(自治会館利用)
- ②郊外住宅地住民の高齢化のための移動手段としてオンデマンドバス実証実験
- ③資源循環型エコリサイクルの実現に向けた取り組み
- ④木材を原料とする「木製ストロー」の普及を通じ脱炭素化や海洋プラスチック問題・森林環境保全の意識啓発
- ⑤海と教室をライブ映像でつなぐ海洋教育プログラムを実施

※RE100とは

使用する電力の100%を再生可能エネルギーにより発電された電力にする事に取り組んでいる企業が加盟している国際的な企業連合。



《鎌倉市》

対応者 鎌倉市共創計画企画課

企画計画担当 飯泉 浩二氏

鎌倉市は約90の環境ボランティア団体がある。平成20年度にはリサイクル率全国1位に。平成28年3月に鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」を目指す将来の目標とした。

その取り組みとして

- ①新たな産業振興施策としてテレワークを推奨し、若年層の流出に歯止めをかける。
- ②歴史や文化を大切にしながら今の生きる生活も快適にするため、慢性的な交通渋滞の解決に向けて「ロードプライシング」の実施検討
- ③クリエイターの集まる街に、鎌倉の技術を世界に発信

このような今までの蓄積を生かし、SDGs未来都市としての取り組みを2018年度から実施。

- ①総合計画の改定
- ②計画実行の仕組みづくり
- ③古民家を活用したSDGsのショーケース

鎌倉の目指す姿として「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造。住みたい・住み続けたいまち」に。そのために経済面として新しい拠点、整備、公的不動産の利活用による企業誘致、新しいライフワークスタイルの提案。環境面としてロードプライシング(渋滞対策)、市民・NPO・来訪者・企業との共創による環境活動。社会面としてリビングラボによるコミュニティ醸成、市民・NPO・企業との共創、市民活動推進条例化を目指す。

※次世代を担う子どもたちに将来ツケを残さない持続可能な都市経営を目指し、「SDGs未来都市かまくら」の推進に取り組む

小中学生を対象に2030年に大人になる子ども達から今の社会や大人に対するメッセージを冊子にして配布。

